

### (3) 中国系のメロディー

役人の目を誤魔化すために棒術を棒踊りとして、笛・太鼓・銅鑼に合わせて村の諸行事で踊りまくった与那国島の棒踊りは、イベント最大の出し物である。獅子舞は、そのつまみのようで、あまりパットしない。終戦（1945年）間もない頃の横笛は、ベトナム土産の横笛のように非常に細い自家製の手作りの横笛で、非常に甲高い割れた音で非音楽的とでもいいたいような噪音（シギ音）で演奏されていた。沖縄本島在住者で組織する在沖与那国棒愛好カンチャティ会の横笛は、戦前に使われていた自家製の細い竹で作られた横笛で甲高い音に特徴があった。

地元の島仲の棒踊りや石垣在住の棒踊りは、内径が太い既製品の紫山製の横笛を使っているので、音楽的ではあるかも知れないが、棒の迫力が半減しているような気がする。出来れば甲高い音を求めるために、篠笛の10笨調子か11笨調子の笛を使うか、出来れば筒音を「レ」とする「変ロ長調型」の指使いで演奏してほしいと思う。



与那国町祖納島仲の獅子（第5回全島獅子舞フェスティバルのパンフより）

#### ① 島仲の棒・獅子の前奏曲 採譜：筆者

この前奏曲は、後奏曲・棒踊りや獅子舞の演技の際にも使われるテーマソングである。